



令和4年12月23日

各報道機関 御中

宮崎大学企画総務部  
総務広報課長

### 宮崎大学のトピックス（12月分）の配信について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より本学の教育・研究・社会貢献活動についてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本学は地域活性化の中核的役割を果たす大学として日々様々な活動を行っております。その活動の概要は、大学のウェブサイト上にトピックスとして掲載し、幅広く地域の皆様に見ていただけるようしているところです。

そのトピックスを月毎にまとめたものを報道機関の皆様にお配りし、大学の活動を知っていただくとともに、記事として取り上げていただき、より地域の皆様の目に届けたいと思っております。

つきましては、是非一読していただき、取材していただくようお願いいたします。取材にあたっての関係部署との調整・取り次ぎ等は総務広報課広報係にお申し付けください。

敬具

① 発信元

宮崎大学企画総務部総務広報課

TEL : 0985-58-7114 FAX : 0985-58-2886

## 宮崎大学最近のトピックス（令和4年12月分）

1. 『令和4年度若者に届く！届ける！選挙啓発動画作品コンテスト』で内山さんが優秀賞を受賞
2. 全国農業新聞に工学部川末教授の研究がクローズアップされました
3. 「月刊先端教育」に本学のデータサイエンス教育がクローズアップされました
4. 島原学生駅伝・九州学生駅伝2022で本学陸上部が力走
5. ボランティアサークル「びいだま」が「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰！！
6. 公開講座「世界の野球事情（2022年度）」全15講座が終了
7. 青島太平洋マラソン2022で教職員が力走！！
8. 宮崎大学木花キャンパス内に期日前投票所を設置
9. 米国オンライン集中英語プログラムの開講式を実施
10. 『プロジェクションマッピング×朗読劇公演』を開催
11. 令和4年度宮崎大学自衛消防訓練を実施しました

## 1. 『令和4年度若者に届く！届ける！選挙啓発動画作品コンテスト』で内山さんが優秀賞を受賞

宮崎大学大学院農学研究科修士課程1年の内山智浩さんが制作した動画が、『令和4年度若者に届く！届ける！選挙啓発動画作品コンテスト』（主催：宮崎県選挙管理委員会）で優秀賞に輝きました。



本コンテストは、令和3年度から実施されていて今年が2年目となり、今年のテーマは「未来を映す、あなたの1票！行くでしょ選挙！」。若い世代の投票率の低さが問題となる中、作品を視聴した若者（10～20歳代）が選挙に対する意識を高めてもらうことを目的としています。

## 2. 全国農業新聞に工学部川末教授の研究がクローズアップされました

全国農業新聞（2022年11月25日）において、本学工学部川末紀功仁教授を中心とする研究グループがAI（人工知能）とAR（拡張現実）技術を駆使して開発した「豚の体重を瞬時に可視化する装置である「豚の体重が見えるめがね」がクローズアップされました。

この装置は、2021年12月23日（木）に公表された、農林水産省の「2021年農業技術10大ニュース」にも選定されるなど、両手がフ



リーな状態で作業に従事できるため、養豚業における作業を効率化させ、今後の養豚業のあり方を大きく変える可能性を秘めていることから国内外から注目されています。

### 3. 「月刊先端教育」に本学のデータサイエンス教育がクローズアップされました

学校法人先端教育機が発行する「月刊先端教育」(2023年1月号)の「特集(高校・大学のデータサイエンス指導)」において、本学の全学部学生を対象にしたデータサイエンス教育「宮崎大学データサイエンス・AI教育プログラム」がクローズアップされました。

本学では、2022年度に、文部科学省事業である「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(MDASH リテラシーレベルプラス・応用基礎レベル)」の認定を受けたほか、2022年10月に行った大学内組織改編により、学び・学生支援機構に数理データサイエンス部門を新設するなど、全学的にデータサイエンスを学ぶことができる体制を確立してきました。

今回は、これらの取り組みの中心的役割を担う、田村宏樹教授(数理データサイエンス部門長 / 工学部教授)と秋山博臣教授(前数理データサイエンス部会長 / 教育学部教授)が、教育体制の特徴と今後の展望などについて紹介しています。



### 4. 島原学生駅伝・九州学生駅伝 2022 で本学陸上部が力走

令和4年12月3日(土)、長崎県島原市において平成新山島原学生駅伝(第40回九州学生駅伝対校選手権)が開催され、宮崎大学陸上部は7区間57.74kmを3時間20分8秒でゴールする力走を見せ、13位となりました。

大会には、九州・沖縄各地から17校が参加。陸上部長距離ブロック主将を務める松本真和さん(農学部獣医学科3年)は「前年度よりもタイムを短縮し、順位も一つあげることができた。個人としても納得のいく走りをするのができた」と、5区9.08kmを30分32秒の好タイムでたすきを繋ぎました。



## 5. ボランティアサークル「びいだま」が「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰！！

令和4年12月6日（火）、令和4年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰が行われ、宮崎大学ボランティアサークル「びいだま」が受賞しました。

本団体は、約30名の宮崎大学生を中心に構成されていて、宮崎県立こども療育センターに入所している重度・重複障害がある児童生徒に対して「学習指導」を行っているほか、活動の延長として、第3

日曜日の午後、獣医師が所属する外部団体と連携しながら児童生徒と犬とが触れ合う「ふれあい活動」を行うなど、障害者当事者の学習支援や地域社会との交流の機会の創出につながる活動を展開しています。

今回は、これまで約30年にわたる長期の取組により、これまで所属した学生も250名を超え、障害者支援の人材育成につながっていることや、卒業先も学校関係や福祉施設のみならず、工学、農学などあらゆる分野で活躍していることが高く評価された形です。

オンライン形式で実施された表彰式では、伊藤孝江文部科学大臣政務官から受賞した団体・個人に対して感謝の意が述べられ、受賞者を代表して、鈴木秀雄さんから挨拶がありました。

受賞式終了後、佐藤一仁理事から表彰状が渡され、部長を務める丸山大和さん（工学部・土木環境工学プログラム・2年）から「今回の受賞は私たちではなく、これまで積み上げてきた先輩方のおかげです。私たちも先輩方にまけないよう、子ども達優先で楽しく活動していきたい」と抱負が述べられました。



## 6. 公開講座「世界の野球事情（2022年度）」全15講座が終了

令和4年12月7日（水）、宮崎大学がJICA国際協力機構などと連携しながら、世界各国で野球の指導経験がある日本人を講師に招き、Zoomを利用したオンライン形式で、日本とは全く異なる世界各地の野球事情を国内外に発信する公開講座「世界の野球事情（2022年度）」全15講座が終了しました。

本講座は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて海外渡航はもちろん、外出制限などが行われた社会情勢などを背景に、自宅にいながら気楽に世界の野球事情に触れてもらおうと、令和3年度から開始したものです。令和3年度は前後期合わせて20講座を実施しており、今回で通算35講座を終了したことになります。講座では各講師がその国ならではの苦労話を交えながら、各国の野球事情とともに野球というスポーツの価値を幅広く紹介していただき、国内外から幅広い年齢層の方に視聴いただきました。

どの講座も、野球の競技力向上や普及だけではなく、野球を通じた人材育成や人的交流の重要性が共通の話題として取り上げられ、スポーツが持つ様々な可能性を再確認できる内容となりました。後期は、アフリカなどを拠点に紛争被害者などの支援を行う認定NPO法人テラ・ルネッサンス理事長を務める小川真吾氏（元JICAハンガリー野球隊員）や、高校卒業後に渡米し、アメリカの大学野球に挑戦した株式会社ストライダーズ代表取締役社長の早川良太郎氏などにも講師を務めていただき、海外での野球経験を踏まえた現在の取り組みについて熱く語っていただきました。

また、最終回では、東京オリンピック組織委員会（野球部門）の一員として大会実施に尽力し、現在は日本野球連盟公式審判員としても活躍しているスージー ウィジャヤナーヤ氏（スリランカ）が講師を務め、日本人コーチとの出会いから野球にのめり込むことになり、審判としてのキャリアを重ねてきたことやベースボール5の普及状況などを紹介しました。

宮崎大学では、今後も様々な角度から多様化する学びのニーズに合わせた講座を実施し、地域社会及び国際社会に貢献できるよう取り組んでまいります。



## 7. 青島太平洋マラソン 2022 で教職員が力走！！

第 36 回青島太平洋マラソン（令和 4 年 12 月 11 日開催）において、本学医学部附属病院看護師の福崎崇宏さんが 2 時間 31 分 40 秒で 17 位に輝きました。また、興柁聡志さん（医学部集中治療部助教）が 2 時間 38 分台、坂田錦吾さん（工学部職員）が 2 時間 53 分台の好タイムでゴールしました。



本大会は、宮崎県内最大のマラソンイベントで、宮崎大学から車で約 10 分の場所にある宮崎県総合運動公園がスタート・ゴール地点となっています。当日の気温は約 18 度まで上がり、フルマラソンには少し暑いコンディションとなりましたが、県内外から駆けつけた約 9,100 人のランナー（エントリー総数約 10,000 人）が澄み渡った青空の下を駆け抜けました。また、県内各高校のダンス部や合唱部などによる応援パフォーマンスも 3 年ぶりに復活し、沿道に駆けつけた多数の地域の皆さんと一緒に大会を盛り上げました。

そのほか、本学教職員・学生も多数参加して大会を盛り上げ、大会運営面においては、本大会のメディカル委員会委員長を帖佐悦男教授（宮崎大学理事）が務め、本学医学部整形外科講座を中心としたスタッフ約 20 名が大会をサポートしました。

宮崎大学では、今後も様々な形で地域の各種イベントに協力し、これまで以上に活力に満ちた地域づくりに貢献できるように努めてまいります。

## 8. 宮崎大学木花キャンパス内に期日前投票所を設置

令和 4 年 12 月 25 日（日）に行われる宮崎県知事選挙（12 月 8 日告示）に先駆けて、12 月 12 日（月）と 13 日（火）の 2 日間、宮崎市選挙管理委員会が宮崎大学木花キャンパス内（330 記念交流会館）に期日前投票所を設置しました。投票できる時間帯は、午前 11 時から午後 6 時までとなっています。



## 9. 米国オンライン集中英語プログラムの開講式を実施

令和4年12月14日(水)、宮崎大学は、学生の海外留学・研修を推進し、多様な経験を積むことで更なる成長を促す機会を創出するためのプログラム「米国オンライン集中英語プログラム」(American Intensive Virtual English Program) 開講式を実施しました。

式には、本学から鮫島学長、新地理事、村上副学長のほか、本学協定校であるインディアナ州立大学ペンシルベニア(IUP)のドリスコル学長、米国国務省からストレイダー在福岡米国領事等もオンライン形式で出席。両学長および領事の挨拶の後、本件のプロジェクトマネージャーである国際連携センターの河野助教から本プログラムの背景や仕組み等について説明が行われました。

本プログラムは、米国国務省の助成金を受けて運営されていて、IUPが提供する8週間のオンライン集中英語プログラムを学内選考に合格した学生約10名に無料で提供するほか、宮崎大学多言語多文化教育研究センター教員による学習アドバイスも同時に実施します。また、実際の留学に必要なアカデミック英語を学ぶのみならず、IUPの学生チューターとの国際交流が行われることにもその特徴があります。



## 10. 『プロジェクションマッピング×朗読劇公演』を開催

令和4年12月14日(水)、宮崎大学附属図書館 komorebi (こもれび) において、『プロジェクションマッピング×朗読劇公演』が開催されました。

本公演は、2022年度とっても元気！宮大チャレンジ・プログラムの活動の一環として、「飛び出せ！ドラマティックリーディング～扉の向こうは宮崎軒～」プロジェクトチームにより、企画・運営され、小学校4年生「国語」の教科書教材である「注文の多い料理店（宮沢賢治）」を題材に、プロジェクションマッピングによって物語の情景を放映。物語の表面には出てこない登場人物などのアレンジが加えられた劇と共に、声による情景音や効果音が含まれた朗読が行われ、見る者が物語の世界にどっぷりと浸かり、それぞれの視点によって独自の想像が広がっていくような不思議な感覚の公演となりました。

公演終了後には、アフタートークが行われ、プロジェクションマッピングの技術的に難しかった点や取材秘話などが話され、会場は大いに盛り上がりました。また、参加者からは「副次的に映し出された影によって、臨場感が素晴らしかった」などの感想が述べられ、チームにとっても新たな気づきとなりました。



## 11. 令和4年度宮崎大学自衛消防訓練を実施しました

令和4年12月15日(木)、本学の学生・教職員の防災意識の高揚を図るため、木花キャンパスにおいて自衛消防訓練を実施しました。

当日は、安否確認システムを使用した緊急連絡訓練、震度6強の地震が発生したことを想定したシェイクアウト訓練、火災発生を想定した自衛消防訓練を行い、参加者は避難経路の確認や実際に屋内消火栓の操作を行うといった様々な体験型の訓練を通じて、防災の重要性を改めて認識し、充実した訓練となりました。

また、創立330記念交流会館前では、消火器訓練や起震車体験なども行われ、教職員のほか学生も参加しました。

本学では、今後も定期的に訓練等を実施し、防災意識向上を図るとともに、万が一の緊急事態にも適切に対応できるように努めてまいります。

